

放課後等デイサービスぱれっと 支援プログラム

作成年月日：2025年3月10日

営業時間		第2・4 金 15:15～17:00 / 土 10:00～11:45、14:00～15:45		送迎実施の有無		なし		
法人理念		・子どもたちが自分の好きなことを見つけ、夢中になって遊ぶ楽しさや誰かと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、自分に自信をもって成長していくことを支える場所となる。 ・保護者が、子どもの自己主張や手を焼かせる姿も成長の証として楽しみながら子育てができるように、育ちの見通しを伝えたり、一緒に子どもを育てていく共同体となる。 ・「子どもは子どもらしく遊びながら育ち、親は子どもとの生活を楽しみながら子育てできるように」という思いの上に、専門性を持った目や関わりで、たくさんの子ともや家族の方を支えていける場を目指す。						
支援方針		・時間や活動の見通しを持って行動できるよう、わかりやすい環境を整え、主体的に活動する。 ・それぞれの子どもたちの「わかる」「できる」活動を充実させ、一人ひとりが自信を深める。 ・子ども同士の話し合いの中から必要な物や手順を提案し、大人と一緒に自分たちで活動の計画を作成し、準備から片付けまでやり通す力を育てる。 ・目的に応じて道具を選択したり、やり方を工夫しながら作り上げていく経験をし、達成感を感じて、意欲や手応えを積み上げる。 ・遊びや設定活動の中で、友だちを意識し、モデルとして自らの活動に取り込んだりいいところを認めあったりする中で、友だちを敬う気持ちを育む。 ・友だちと協力し合ったり、共通の目的のためにみんなで役割分担をしていくことで、集団の中での自分の役割を意識しながら行動できるようにする。						
支援内容								
項目		対象		1.2年生		3.4年生		
		5.6年生						
本人支援	支援方針		・小学校入学や進級など、新しい環境で不安定になりがちな気持ちに寄り添ってもらいながら、見知った場所・人と安心して楽しんで過ごす。		・目的や工程の明確な遊びに取り組む中で、手応えや達成感を味わい、自信を持ってとりくめることの幅を広げる。 ・集団の中でルールを共有しながら、友だちと関わることを楽しんだり、自分なりの表現ができる(受け止めてもらえる)喜びを感じる。		・小集団の中で、互いに安心できる関係性をはぐくみながら集団での活動を楽しむ。 ・目的に向かって、大人の支えを受けながら子どもが主体的に計画を立てたり役割分担し、実行する中で達成感を味わう(自己選択してやりきる経験を積む)。	
	健康・生活	支援方針	・持ち物の片づけや整理など、大人に声をかけてもらったり注意を向けられるように環境を整理してもらいながら必要なことを自分でする。		・全体の活動の流れの中で自ら片づけに取り組み、ここならできる、という成功体験を積む。		・活動の中で必要なことを自分で考えて取り組み、失敗しても次にどうしたらいいのかを大人や友だちと考えると再挑戦する。	
		具体的取り組み	・幼児期からの繰り返しのあそび、流れの中で安心して過ごす		・困った際にヘルプが出せる関係を築き、安心できる大人が側にいる状況で思いを汲み取ってもらいながら周囲とつながれる環境をつくる。 ・集団の中で、嫌なことも嬉しいことも大人や他児と経験や感情を共有する。			
	運動・感覚	支援方針	・幼児期から繰り返し経験した活動に、自信をもってとりくむ。 ・思いきり身体を動かし、気持ちやエネルギーを発散して楽しむ。		・新しいことにチャレンジしたり、繰り返し挑戦する中で、できた手応えを味わう。 ・繰り返し経験した活動で、遊び方を自分で見つけ、自分なりの楽しみ方を味わう。 ・大人に援助してもらいながら、自分にとって快・不快な感覚に対処する。		・自分の身体や感覚を知り、大人と一緒にどのように対処していくのかを考える。 ・学校や家庭など別の場面でも、自分の身体や感覚に合わせた調整を自分でしようとする。	
		具体的取り組み	外あそび、プール、体育あそび、感触あそび(寒天、スライム等)		運動:協力氷おに、室内運動会、転がし中当て 感触:ぶにぶにボール、小麦粉粘土作り		運動:水風船あそび、クイズラリー、体育あそび(アレンジ) 感触:新聞あそび、段ボールあそび	
	認知・行動	支援方針	・活動の時間や内容などの枠組みを視覚的・個別に提示し、次の活動へ気持ちを向けていく。 ・他児が取り組んでいる姿を見る時間を保障し、気持ちの後押しをしたりきっかけを作りながら、子ども自身が自分のタイミングで一歩を踏み出せるようにする。		・ぱれっとでの活動の流れを理解し、次に向けての準備ややるべきことに目を向け、自分の力でやり切ろうとする。 ・自分が使う道具の整理や片づけなど、自分のことは自分でやり切るようにする。		・全体説明など、注目すべき場面に気付き、活動に向かう姿勢を自ら取ろうとする。 ・集団の中で自分の役割や今すべきことに目を向けて、工程表の活用や必要に応じて周りの人にヘルプを出してやりきろうとする。	
		具体的取り組み	活動が切り替わる場面でのサポート 工程と結果の分かりやすい製作あそび(切り紙、貼り絵製作など)、クッキング		活動の導入や終わり場面の状況整理 オリジナルを楽しみつつ、完成形の明確な製作あそび(シール作り、牛乳パック箱、スノードーム)、クッキング		クッキング、キャンドルづくり、色水タワー、ビー玉転がし装置	
	言語 コミュニケーション	支援方針	・遊びを通して、大人とのやりとりや、大人を介したお友だちとやりとりを重ねる。 ・大人に汲み取ってもらいながら、気持ちを表現する。		・大人対子どもでのルールのあるあそびや、子ども同士のペアで協力ゲームを楽しみながら遊びの中でやりとりを重ねる。 ・大人と相談しながら、集団の中で自ら主張したり相手に伝える経験を重ねる。		・集団の中での役割を担いながら、目的に向かってお友達と相談したり自分のアイデアを提案しながら手応えを味わう。 ・集団の中で自分の役割や今すべきことに目を向けて、相手の発信に目を向けて受け止めながら、子ども同士での双方向でやりとりし、意見を合わせていく。	
		具体的取り組み	自由あそびや設定あそびを通じて、他者との関わり方や表現方法を示す		協力風船パレー、紙コップあそび、ジェスチャーゲームなど		おぼけやしき、コマどり動画、トリック写真など	
	人間関係・社会性	支援方針	・個々の好きなあそびを楽しみつつ、大人を支えに同年代のお友だちと空間・物・あそびを共有し、人と関わる心地よさや一緒に遊ぶ楽しさを味わう。		・自分なりの楽しみ方で好きな遊びを味わう時間を保障すると共に、ルールやテーマのある遊びを集団で共有し、子ども同士と一緒に遊ぶ楽しさも経験する。 ・相手の立場を視野に入れながら、他者と関わっていく。		・子ども同士での話し合いながら、共通のテーマに向かって計画を立て、役割分担しながら楽しむ。	
		具体的取り組み	感触あそびや外あそびなど(なじみのある好きな遊び)		間違い探しづくり、レクリエーション会、お正月遊び(羽子板など)など		駄菓子屋さん、おでかけ、外食、クッキング計画など	
地域支援・地域連携  (地域交流・園外活動)		・学校等や医療機関など、子どもや家族がつながっている機関全体を把握しながら必要な連携をとる。 ・施設内で行われている京都市子育て支援活動センターつどいの広場事業と連動して、療育につながるまでの入り口や、療育終了後の思春期・青年期の居場所づくり等に取り組み、子どもや保護者の状況に応じて柔軟に支援を継続する。 ・学校等と子どもの姿や保護者の状況、家庭での生活の様子等について情報共有し、関係機関がつながって子どもの育ちや家族への支援をしていく。 ・地域における関係機関とのつながりづくりをする(自立支援協議会や地域の様々なネットワーク等への参加)。						
移行支援		・一人ひとりの子どもが楽しく生活しながら必要な経験を積んでいける生活の場を、保護者や関係機関と一緒に検討する(子どもの姿や育ちの課題に応じた集団生活の場を検討する)。 ・学校等への訪問や電話等で子どもの姿を共有し、それぞれの生活場面における今後の方針を一緒に検討する(教育と療育の役割の整理をする)。 ・子どもや保護者(家庭)の必要性に応じて就学先や就園先と面談し、引継ぎを行う。特に困難ケースは、関係機関と面談を重ねながらいていぬいに引継ぎをする。また、移行後も必要に応じた相談対応する(引継ぎと長期的な支援体制づくり)。 ・先輩保護者との交流の場を設け、保護者が子どもとの生活や子どもの育ちや進路について見通しが持てるようにする。						
家族支援		・親としての喜びや子どもとの生活そのものを楽しんだり、保護者が孤独にならないように、保護者の不安や葛藤を支えつつも、育ちの事実や子どもの姿の意味や発達的な価値を伝え、子どもの育ちを一緒に見ていく。 ・保護者同士がつながり、共感や学びあう関係を作る。また先輩保護者から、育ちの見通しやアドバイスが得られるようにする。 ・保護者懇談会:保護者向けの学習会、保護者同士の懇談など、グループによってテーマを設定して行う。 ・療育報告会:療育内での子どもたちの活動の様子や、グループごとのねらい、療育の中で大事にすることを伝える。 ・定期的な面談だけでなく、きょうだい児・家族・学校等など保護者からの相談に柔軟に対応する。						
職員の質の向上		・日頃から気兼ねないやりとりを大切にし、相談し合える人間関係づくりをする。 ・日常の業務の中で、子どもの姿や保護者の思い、施設内の課題、情勢等について細やかな情報共有や意見交換をしている。 ・全ての職員に外部研修、内部研修を受講する機会を設ける。児童分野や療育に必要な専門研修に参観し、学んだ内容を職員間で共有する。 ・虐待防止研修やAEDを用いた心肺蘇生法などの救命訓練の実施。 ・OJTの実施(新人～中堅職員):業務の中で指導を受けたり面談を通じて、職員一人ひとりが自分自身の働き方を客観的にとらえたり、主体的に業務に向かえるようにする。						
主な行事等		・大きな行事はないが、活動の中に季節感を盛り込み、家庭や園や学校での行事や取り組みと共通の体験のようにして楽しめるようにする。 ・年間の活動計画の中で、自分達で企画してお出かけしたり、おぼけやしきづくりをするなどのイベント活動を行う。						